

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 盛光秀之 所属: 川崎市総合教育センター 記録日: 2020年2月1日
キーワード: 読み書き障害、代替手段、定期テスト、

【対象児の情報】

- ・学年 中学校 2 年生
- ・障害名 読み書き障害 (ディスレクシア, ディスグラフィア)
- ・障害と困難の内容

読み・読める文字は増えてきているが、文字ポイントが10以下の細かな文字などになると読み取りに時間がかかる。
書き・文字を書き写すことはできるが、文節でとらえて書くことが困難
記憶・音声記憶に優れている

【活動目的】

- ・当初のねらい
- ①学校や家庭において ICT 利用することで、対象生徒の学びを保障する。
- ②対象生徒に合った学習方法を提案し、定期テストで6割を目指す。
- ③対象生徒が自己理解を深め、充実した学校生活が送れるように心理的なサポートをする。

・実施期間

2019年4月1日～現在まで

・実施者

盛光秀之

・実施者と対象児の関係

3年前に塚越相談室へ教育相談で来所したのがきっかけだが、現在は個人的に研究対象として契約している。指導は月に1～2回程度。

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

○実態

- ・在籍は通常学級である。
- ・現在は塚越相談室での相談は終結している。
- ・担当者と本人が会うのは月に一度家庭訪問を実施しており、ほとんどが遠隔でのサポートである。

○読み書きの実態

- ・URAWSS の結果: 読み速度 C、書き速度 A だった。書き速度は A だが、1文字ずつ見ながら写している様子があった。また間違えが多く字のバランスも悪かった。
- ・形を捉えるのが苦手なのでノートに人の倍時間がかかり、しかも内容は覚えていない。
- ・英語のアルファベットの書き取りは、努力しているが形が整わない。現在、書ける単語は極端に少ない。

○代替手段 (ICT) の活用について

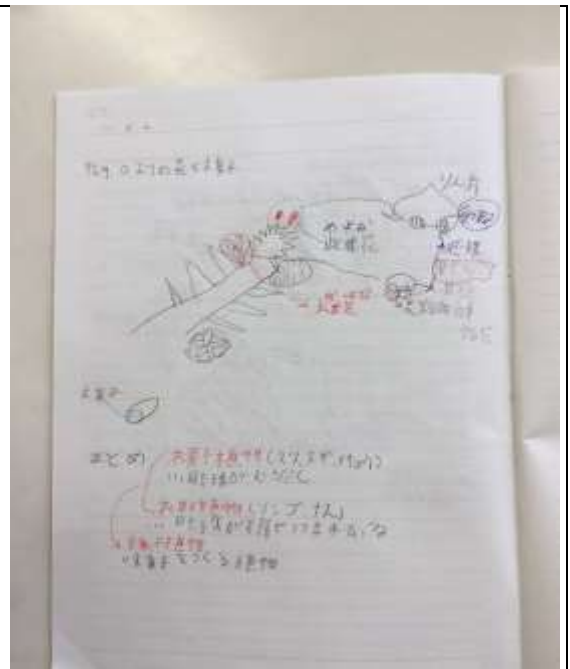
- ・周囲の目が気になり、iPad を使ったのノートテイクは実施していないため現在はノートを自力でとっている。(2 ページ目写真は昨年度のノート) 時々板書を写真でとることがある。
- ・定期テストは別室で iPad 利用をしている。「利用しているのは office Lens+イマーシブリーダー」、利用している教科は国語が中心である。

○その他学習について

- ・作文は苦手としていて、考えをまとめることが難しい。
- ・昨年度の定期テスト結果は、理科社会は5割程度、国語数学は3割程度、英語は1割程度だった。

○心理面・自己理解について

- ・読み書きの能力に関する自己理解は着実に進んでいるが、周囲との折り合いをつけられてはいない。
- ・人間関係は良好であるが、部活動で相性の悪い生徒がいるとのことで、一方的に悪く言われていることもあり人間関係の不安定さからくる体調不良が春から夏過ぎまで出ていた。現在、体調は安定している。
- ・吹奏楽部でサクソフォンの担当。練習を家庭でも楽しんでいる。習いにも行っている。



・活動の具体的内容と対象児の事後の変化

①学校や家庭においてICT利用することで、対象生徒の学びを保障する。【本人参画の配慮申請へ】

【取組】個別の指導計画を学校と一緒に作成していく

①3～5年後を予想する。

現在の学習への取り組みの様子から、対象生徒は高等学校で生活し、その後進路選択をしていることが予想される。

②保護者と本人の希望を聞き取る。

進学希望(本人)

高校に進学して吹奏楽部を続けていきたい。
将来は医療系の職業に就きたい。

進学希望(保護者)

楽しく高校生活を送ってほしい。

★保護者と本人の希望を合わせると、「第一希望は公立高校、公立が難しい場合は大学に行けるサポートのある私立高校を考えたい。」ということになった。

③学校での様子を聞き取る。学校に訪問して現状の確認をした。

以下は担任からのコメント

◎学習

私の担当教科である英語に関しては、アルファベットの大文字・小文字が書ける程度。読んで英文を理解することは、とても不得意です。音声で聞くほうが、内容を理解しやすいのかもしれませんが。教室内タブレットの使用については本人が恥ずかしがり、また「なくても大丈夫」とのことで、ほとんど使用していません。学校としてはどんどん使ってもらって、使用による学習の支援が果たしてどのように結果として出るのか知りたいところではあります。

◎生活面

- 生活面全般に関しては特筆すべきことはありません。

◎友人関係

- 所属する吹奏楽部内で多少トラブルはあるようですが、対立していた生徒とも最近は仲よさそうに話しています。

周囲の生徒に聞いたところによると「仲直りしたみたいです。」とのことでした。クラス内に友人もおり、特に目立つ問題点はありません。

◎本人の良さ・興味のあること

- 真面目である。人当たりが良い。
- 本人は吹奏楽部に所属し、アルトサクスを担当しています。アルトサクスの演奏はとても好きなようです。

④現在の支援の状況をまとめる。

- 授業中の iPad 利用については、本人が希望すればいつでも使える状態にある。
- 定期テストは別室、iPad 利用の許可を得て、他の生徒と同様に評価されている。
- リーディングトラッカーや文字を拡大できる道具の利用も認められている。
- 学年全体で情報共有してあるが、優先順位は低いので教科担当によって様々な解釈がある。
- 聞けばわかることが多いので、現在は座席を一番前にしてもらい個別の声掛けをもらっている。
- 今回の定期テストでの情報として、何度も読み上げ機能利用のために、写真を取り直していたので時間の延長があっても良いのではとの声があった。確かに読み上げ機能の利用は、画像を撮影するときに失敗することがあり時間をロスしてしまう。だから、国語しか使わないのかもしれない。彼女は完全に読めないのではなく、たどたどしい読みでも何とか理解する力がある。



⑤今後の必要な支援について具体的に示す。

- 定期テストのデジタル提供と英語の入力での許可を得ていく。
- 授業中の iPad 利用が可能であることを、各教科担当が本人に伝える。

⑥保護者と本人の同意

- キーボードのスキルが上がってきたところで、今年度中に本人と一緒に学校で配慮を求める予定。

⑦今後は本人参画のもと個別の指導計画に位置付けてもらい学校での共有をして進学先への配慮につなげていきたい。また、高等学校の入試に関しても配慮受験の申請をしていきたいと考えている。

・対象児の事後の変化

中間テストで、拡大ルーペの利用を本人が申請して許可してもらった。本人は配慮申請に対する障壁が下がり、必要なことは自分でお願いすることができるようになってきている。また、英語の宿題などもPCで入力して提出をお願いしてみるなど、自分から配慮を求める姿勢が出てきている。今までは保護者が学校と交渉をしていたが、自ら配慮を求める段階に入ってきたことは評価できる。今回の取り組みを通して、対象生徒を取り巻く関係者の理解が深まり連携がし易くなった。



②対象生徒に合った学習方法を提案し、定期テストで6割を目指す。

対象生徒に合った学習方法を提案し、定期テストで6割を目指す。





【取組】英単語や英文法を覚え、定期テストで点数アップを目指す。

参考図書:明治図書 読み書きが苦手な子どものための英単語指導ワーク(村上佳代子著)

ねらい	利用したアプリ	期待される効果	結果・考察
STEP 1 正しいフォニックスを覚えて、聞き分けることができるようになる。		フォニックスの音を聞いて、正しいアルファベットを選択できる。	対象生徒は細かな音の違いに気づくことができるので、正しく覚えることができた。
STEP 2 母音に注目して 子音+母音+子音の音を聞き取りアルファベットで書けるようになる。	フォニックス 	子音+母音+子音、または子音+子音の音を聞き、聞いた音をアルファベットで表記できる。	3文字までの単語は正確に聞き取り表記できるようになった。
STEP 3 子音+子音の音を聞き取りアルファベットで書けるようになる。	Word Wizard 		
STEP 4 ダイグラフを理解する		マジック e とダイグラフの理解に利用。音に着目して類似の単語がまとまっているので理解促進のため利用。	理解はできたが、実際の音から想像することは難しさがある。
STEP 5 マジック e を理解する	英語発音達成攻略 		
英文で理解する		どちらのアプリも単語スペルのミスがあるとハイライトで示してくれるので、即時に単語の確認ができる。英文法に関しても、コメントを入れられるので理解を促しながら記憶につなげることをねらった。	書くことより、アクセスがしやすいので反復練習が可能となり、記憶の定着に繋がった。 

【取組】音声記憶の良さを生かす

・紙ベースの情報をできる限り、テキストデータにしてアクセスしやすくした。

アプリ名	期待した効果	結果
Text2Voice 	紙ベースの情報をテキストに変換することで、音声読み上げを可能にすること。	かなり正確な OCR だが、資料集など複雑なレイアウトには不向きである。だが、おおよその情報は抽出できて、ワードやドキュメントで保存が可能だった。
いーリーダー 	英語の教科書を音声で聞くことにより、ヒアリングの向上につなげる。	音声は覚えているが、問題の読みや書きでつまずきがあるため結果に結びつきづらい。
わたしの暗記カード 	テキストベースになったものを、問題と解答に分けて入力して、自分で学習に取り組むこと。	読み間違えが多いのと「例 造山帯⇒つくりやまたい」、読みがロボットで聞き苦しさがある。問題を作成した後、AirDropで簡単にファイルの受け渡しができるので、担当が問題を作って渡していた。
わたしの読み上げ単語帳 	単語テストに向けて、自分でカードを作成して繰り返し練習できる。	まだ、使用に慣れていないため作成に時間がかかる。今後も継続的に利用していくかを検討していきたい。
Access Reading	ワード文書で提供されるので汎用性が高く、ポイントを絞ってテキストデータを利用できる。	本人の情報量に合わせてカスタマイズできることには優れている。ただ、月に一度程度の確認となるのでタイムラグが発生していた。今後は自分で文書を管理できるスキルを身に付けていきたい。
和太鼓	ワードのアドイン、音声読み上げを簡単に実施できるため、本人の隙間時間の活用に利用した。	家庭 PC で利用したが、常時利用するためにはいつでも使える状態にする必要がある。ただ、本人は音声記憶の良さを理解しているので使おうという意識はあった。

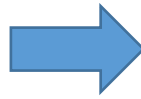
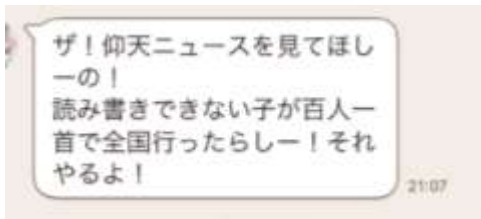
・対象児の事後の変化

母親からの連絡によると朝の支度をしながら、和太鼓を使って耳で学ぶ姿が確認されたとのことだった。自分の学習スタイルを確立していく様子がある。期末テストでは教科数が多いため情報量进行处理しきることができず少し疲れていた。英語に関しては、単語までは練習できたが文法までたどりつかなかったので、後期中間テストに向けて取り組みを続けていきたい。

③対象生徒が自己理解を深め、充実した学校生活が送れるように心理的なサポートをする。

【取組】LINE を使った心理ケアサポートや動画で学べるようにサポート

・自己理解や自己開示した内容のコメントがよく発信されている。今後も



・ある日「先生一点透図法ってどうすればいいの?」と連絡がきた。YouTube で関連動画がないかを確認して以下の動画を紹介した。YouTube には最近教育関係の動画が多くあり、中には理解が進むコンテンツが充実してきている。ただ、無数の情報から本人に合った物を選ぶことには課題がある。



【取組】弁論大会の作文で、自己理解を促す

夏休みの課題で弁論大会の作文課題があった。そこで、マインドマップで情報を整理して作文を作った。主な内容を以下に示す。

「題名、私の勉強法」

読み書きが苦手なので、いろんな方法で学習を試している。今自分で最も効果的だと思う学習方法はiPadを使って読み上げること、家族にお願いして問題を出してもらうこと、進研ゼミのチャレンジバッドで何度も同じ問題を繰り返すこと。文字を拡大して読みやすくすること。皆さんも、いろんな方法があるので試してみたいはかがでしよう。

・対象児の事後の変化

4月から不定愁訴が起り、思春期もあるので対応には配慮してきた。夏休み後半は微熱が続き部活動を休むことが多かったが、現在体調面は安定している。心理的にも前向きに学校生活を送っている。今後も本人の自信が高まるようなサポートをしていきたい。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

今年になって、本人の学習スタイルが確立されてきた。具体的には、基本唱えながら暗記することを学習の中心において、提出物は早めに着手するようになってきている。

・エビデンス(具体的数値など)

定期テストの結果

中学校2年生 現在の評価と定期テスト結果

	国語	社会	数学	理科	英語
2年生前期 中間テスト	51	64	70	61	23
2年生前期 期末テスト	31	60	27	41	36
2年生前期 評定	3	4	3	3	2

テストの点数に関しては、理科と社会は安定してきているが、国語と数学に関しては単元によって得意、不得意がある。特に見え方にユニークさがあるので、数学の図形問題に関しては苦手さがある。英語は取り組みの成果が少しずつ出てきている。評定に関しては、授業での意欲や態度について高く評価してもらっているため評定平均3を維持している